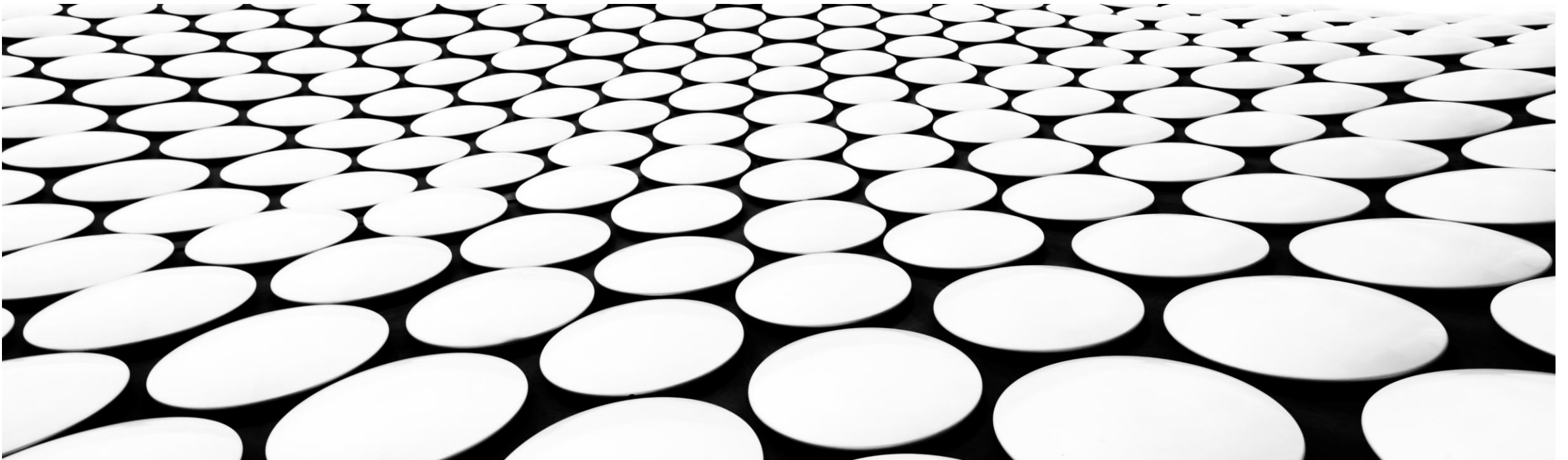


支援困難事例に有効な支援視点

町田市障がい児者自立支援研究・研修会

社会福祉法人まちのひ理事長 森 公男



今日の講義内容

- 1 2024年度支援困難事例検討研修会（年間）の概要
- 2 2024年度の事例から検討してきた内容を紹介
- 3 幸せのレシピ2024
～支援困難事例検討研修会からの有効な支援視点集～

2024年度 支援困難事例検討研修会の概要

開催方法は、オンライン（Zoom）

第1回目 **講義**：行動障害の理解と支援（2024年 5月25日土曜日 9:30～12:00）

行動障害が発生する要因を分析する視点と有効な支援を紹介しました。

以降の研修会は、事例報告をもとに支援困難な状況を改善する方法について意見交換を行いました。

第2回目 事例検討① 4事例 （2024年 7月27日土曜日 9:30～12:00）

第3回目 事例検討② 4事例 （2024年10月26日土曜日 9:30～12:00）

第4回目 事例検討③ 4事例 （2025年 1月18日土曜日 9:30～12:00）

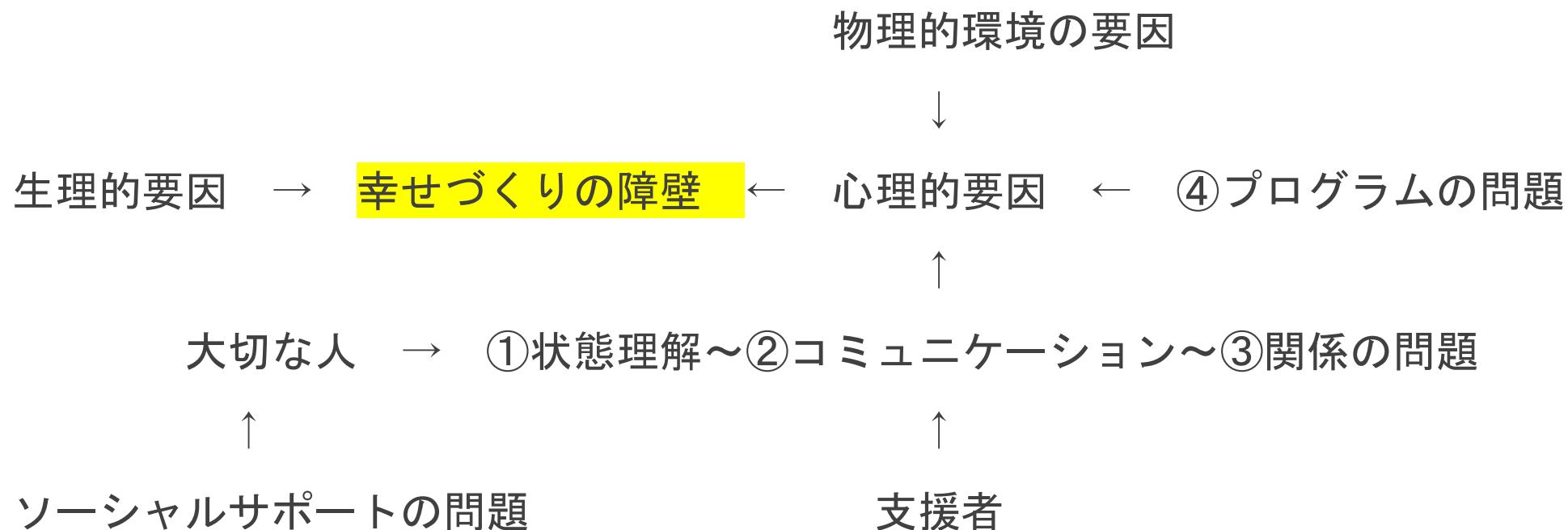
同じ事例を継続して検討します。

3回の事例検討において4事例ともに、支援視点が整理されて支援困難な状況が改善されています。

2024年度の事例検討から

1 事例理解

2 幸せづくりの障壁が発生する基本構造モデル



2024年度事例検討内容の紹介 その1

【解説①】 記号論におけるインデックスレベルの理解

- サイン 条件反射のレベルで刺激と反応が結び付いている理解 例：梅干しと唾液、入浴前の便意など
- インデックス そのものを意味しないが推定できる情報 例：道路が濡れていると雨が降ったと推定、煙を見て火を推定
- シンボル 社会的ルールに基づく記号 例：言葉、手話、点字

重度の知的障害があり、自閉スペクトラム症がある事例であり、社会的ルールに基づく記号を理解することは困難であることが想定される。シンボルレベルではなく、インデックスレベルでの理解が多いとすると社会性の弱さからキャッチした情報から推定する内容も「俺ルール」が強く、その結び付け方にも固執（こだわる）する傾向がある可能性も高い。

2024年度事例検討内容の紹介 その2

【解説②】 想定できない対人交渉を回避したい気持ちがあるか？

刺激障壁（精神分析的発達理論）では、乳児期早期における乳児は、刺激障壁stimulus barrier（Freud, S. 1920）によって外界の刺激から守られているという考え方があります。



情報をフィルターにかけて、有益な情報のみにコントロールする能力不全があると



自分の身体情報 + 自分の記憶 + 外部環境からの情報 + 認知の歪み



感覚異常



タイムスリップ



情報環境を自己調整



自己主張の正当化に拘る



承認欲求



環境不適応体験



ローナ・ウイングの自閉症3タイプ

孤立群：低刺激環境を選択 → 耳ふさぎ、サングラス、構造化環境

受動群：自己主張によるコミュニケーション回避 → 構造化環境

積極奇異群：自己主導による一方的なコミュニケーション →

相手に応じた話題転換を回避